

横田英史の 書籍紹介コーナー



これからの「社会の変え方」を、探しにいこう。

～スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー ベストセレクション10～

SSIR Japan編集

SSIR Japan 2,970円(税込)

社会を変える力を持つソーシャルイノベーションとは何か、どのように立ち上げ、どのように実践すべきかを具体的に紹介した書。ソーシャルイノベーションの現状と今後を論じる。抽象論や観念論に終わらず、事例に基づき、企業や非営利団体、行政が組織の枠を越えてとるべき方策や在るべき立ち位置を提示する。

ソーシャルイノベーションは、経済的・社会的価値の分配バランスが、社会全体に傾いた動きを指している。目新しさや改善が重要で、より持続可能であることや、より公正であることに重きを置く。実現には、ビジネス界のアイデアや方法論を、非営利分野や行政分野の活動に適用することが不可欠である。

これから注目を浴びそうなBコーポレーション(社会に利益をもたらすことを非常に深くコミットする営利企業)やカーブカット効果、コレクティブ・インパクトといったキーワードがいくつも登場する。

マスターアルゴリズム

～世界を再構築する「究極の機械学習」～

ペドロ・ドミンゴス、神島 敏弘・訳
講談社 4,950円(税込)

究極の機械学習アルゴリズム「マスターアルゴリズム」を作るという気宇壮大

な目標を掲げた書。筆者は博識ぶりを発揮して、神経科学や進化物理学、物理学、統計学、コンピュータ・サイエンスを駆使してマスターアルゴリズムを追い求める。この追い込む思考実験がスリリングで興味深い。

筆者は、「過去、現在、未来にわたるすべての知識は、単一の万能学習アルゴリズムによって獲得できる」と語る。話は実に壮大で、この万能学習器を構成するのがマスターアルゴリズムである。マスターアルゴリズムは5つの基幹アルゴリズムの延長にある。5つとは、記号主義者、コネクショニスト、進化主義者、ベイズ主義者、類推主義者が主張するアルゴリズムで、それぞれがマスターアルゴリズムの一つの側面を表すという。

世界「失敗」製品図鑑

～「攻めた失敗」20例でわかる
成功への近道～

荒木博行

日経BP 1,980円(税込)

大きな期待を背負って発売した製品や立ち上げたサービスが、失敗に終わった20件の事例を紹介した書。それぞれの事例について、製品・サービスの概要、失敗に至った経緯、失敗の分析、教訓などを示す。

取り上げるのは、アマゾンのファイアフォン、フォードのエドセル、コカ・コーラのニュー・コーク、セブン・イレブン・ジャパンのセブンペイ、ソニーのAIBO、ゼネラル・エレクトリックのプレディックスと有名な事例ばかり。古典的な事例に混じっ

て、比較的新しい失敗例が含まれているのが本書の特徴である。

筆者は、ファイアフォンについては自社が描いた将来像を重視しすぎて失敗、セブンペイは「自社だけが特別」思考に陥って失敗、プレディックスは顧客の準備が整わず悪循環に突入して失敗と分析する。一つの事例は15ページほどで完結し、コンパクトにまとまっている。

ジョブ型雇用社会とは何か

～正社員体制の矛盾と転機～

濱口桂一郎

岩波新書 1,122円(税込)

「ジョブ型雇用」をはじめとした日本の人事制度の現状と課題を論じた書。ジョブ型雇用だけではなく、同一労働同一賃金、女性雇用、外国人雇用、非正規労働、身障者雇用、長時間労働など、本書のカバー範囲は広い。

ジョブ型雇用が今、メディアを賑わしている。筆者は12年前に、日本の雇用制度の在るべき形態を「ジョブ型」と名付けた張本人で、労働法の専門家。その筆者が、メディアは「ジョブ型雇用」の概念を間違って理解し、記事は誤りに満ちていると舌鋒鋭く断じる。

「ジョブ型に人事査定はない」「ジョブ型には配置転換はない」「職務がなくなれば解雇されるのがジョブ型」「追い出し部屋は既存のメンバーシップ型雇用固有で、ジョブ型には存在しない」など、世の多くの浅薄なジョブ型論者が見落としている重要なポイントを指摘する。

横田 英史 (yokota@et-lab.biz)

1956年大阪生まれ。1980年京都大学工学部電気工学科卒。1982年京都大学工学研究科修了。川崎重工業技術開発本部でのエンジニア経験を経て、1986年日経マグロービル(現日経BP社)に入社。日経エレクトロニクス記者、同副編集長、BizIT(現xTECH)編集長を経て、2001年11月日経コンピュータ編集長に就任。2003年3月発行人を兼務。2004年11月、日経バイト発行人兼編集長。その後、日経BP社執行役員を経て、2013年1月、日経BPコンサルティング取締役、2016年日経BPソリューションズ代表取締役就任。2018年3月退任。2018年4月から日経BP社に戻り、日経BP総合研究所 グリーンテックラボ 主席研究員、2018年10月退社。2018年11月ETラボ代表、2019年6月当協会理事、現在に至る。

記者時代の専門分野は、コンピュータ・アーキテクチャ、コンピュータ・ハードウェア、OS、ハードディスク装置、組込み制御、知的財産権、環境問題など。

*本書評の内容は横田個人の意見であり、所属する団体の見解とは関係がありません。

